

# ネーミングライツと中心市街地、 館林インター周辺開発について

松本 隆志議員

ネーミングライツの導入

**質問** 新たな財源の確保に向け、ネーミングライツ制度を利用し、公共施設の維持管理経費節減に努めていく考えはありますか。

**答** 現状、導入実績がないのは、企業との契約に当たり幾つかの課題があるからですが、ネーミングライ

ツは自主財源確保のために有効な手法の一つであり、その財源が市民サービスの向上へ繋がるものと考えます。今後、様々な事例を参考とし、課題を的確に整理して判断してまいります。

**質問** 中心市街地の賑わい創生進む中、本市では、まちな

かに賑わいを取り戻そうと取り組んでおります。賑わい創生実現のために、中心市街地にある商店街への取り組みや支援策をどのように実施していますか。また、中央通り線拡幅に伴い、店舗の廃業が加速する懸念もありますか、いかに働きかけていくか、お伺いします。

## 本市の認知症高齢者に対する 福祉政策について

柴田 信議員

**質問** 本市の地域包括ケアシステムの推進状況についてお伺いします。

**答** 認知症サポーターの養成、認知症初期集中支援チームの設置、認知症地域支援推進員の配置、認知症カフェの開催など様々な事業を実施しています。

**質問** 認知症疾患医療センター

**答** 認知症疾患医療センターについては、現在群馬大学病院など県内13の医療機関が県の指定を受けており、本市においては、医療法人康生会（社団）つつじメンタルホスピタルが県の指定を受け、本年10月より

事業を開始しました。認知症疾患医療センターの主な役割は、①認知症疾患に関する専門医療相談、②認知症疾患の鑑別診断・初期対応、③認知症疾患の合併症・周辺症状への急性期対応などが挙げられます。入管法改正に伴う本市の外国人材への対応について

空き店舗で創業する際の創業支援を実施しています。また、中央通り線の拡幅では、より安全な道路として賑わい創出ができる空間になると考え、新たなコミュニティ形成について話し合いを進めています。さらに、店舗経営の継続には、個店の魅力と経営力を磨き上げ、足を運びたくなるような店舗づくりをはじめ、設備資金に対応した制度融資や事業承継を支援してまいります。**質問** インター周辺開発の必要性

の方の住民登録も予想されるほか、日本独自の制度である国民健康保険や国民年金については、外国人の方には理解が困難な場合もありますことから、外国人の増加に合わせ、多言語に対応した案内表示や説明用リーフレット、説明資料等の準備・作成を進めてまいりたいと考えています。**質問** 今後の外国人在留者の増加に伴う通訳及び相談

**質問** 交流・定住人口増加の実現には、インター周辺開発は不可欠と考えますが、考えをお伺いします。**答** インター周辺は市街地調整区域及び農業振興地域であるため、開発を進めるには課題が多いですが、インター立地の優位性並びに財源確保の観点から開発の必要性は高く、工夫の余地があると認識しています。今後、開発の可能性のある土地について、情報収集や調査を行ってまいります。**質問** 員の増員などの配置対応についてお伺いします。**答** 今後の外国人増加が見込まれる側面もありますが、当面現状の3名体制を継続し、相談件数の増加に応じて増強などの対応を検討してまいります。**質問** 外国人在留者のための社会生活上の支援等の考えについてお伺いします。**答** 入管法改正後の動向を注視し、外国人増加への対応や支援に努めてまいります。